

株式会社レスターホールディングス

2020年3月期第3四半期
決算補足説明資料

2020年2月12日



2020年3月期第3四半期 連結業績



業績ハイライト

(単位：百万円)	2019年3月期 3Q (※)		2020年3月期 3Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減金額	増減率
売上高	301,389	—	294,618	—	△6,771	△2.2%
売上総利益	20,876	6.9%	19,428	6.6%	△1,447	△6.9%
販管費	13,903	4.6%	14,450	4.9%	547	3.9%
営業利益	6,973	2.3%	4,978	1.7%	△1,994	△28.6%
経常利益	5,845	1.9%	7,154	2.4%	1,308	22.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,173	1.4%	5,571	1.9%	1,397	33.5%

※2019年3月期 3Q累計は、(株)U K Cホールディングス (U K C) と(株)バイテックホールディングス (バイテック) の単純合算

売上高：調達事業、電子機器事業、環境エネルギー事業が堅調に推移したが、デバイス事業の減収等により減少

営業利益：経営統合におけるのれんの償却額891百万円（暫定）を販管費に計上

過年度貸倒引当金回収額（販管費の戻入）14億円相当の縮小等により減益

経常利益／親会社株主に帰属する四半期純利益：

2019年5月13日に開示した「株式の取得（持分法適用化）に関するお知らせ」に関する

持分法による投資利益（営業外収益）の発生等により大幅な増益

半導体及び電子部品事業

■ デバイス ■ E M S

(単位：百万円)	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	
	3Q累計(※)	3Q累計	増減金額	増減率
	金額	金額		
売上高	241,170	215,954	△25,215	△10.5%
セグメント利益	6,019	3,890	△2,129	△35.4%



※2019年3月期3Q累計におけるU K Cの「半導体及び電子部品事業」及び「信頼性試験／分析サービス事業」並びにバイテックの「デバイス事業」（計測機器事業を除く）の合算値

■ デバイス事業

- ・ P C 関連、デジカメの需要減、一部民生向け部品の販売低下等の要因により売上高は減少
- ・ 顧客・商品ラインナップ拡大による新規の需要開拓への取組み、拠点の統合・コストの圧縮、取引条件の改善
- ・ 過年度貸倒引当金回収額（販管費の戻入）の縮小による影響等により減益
- ・ パートナーとの共創の取組みは順調に進展（P C I ホールディングス株式会社との更なる協業強化）
→両社の合併技術会社2社が統合し、株式会社プリバテックがスタート

■ E M S 事業

- ・ 海外での情報通信端末向けのディスプレイ関連需要の増加と工場稼働率の改善、新市場の開拓等が奏功し増収増益

※連結子会社のうち決算が12月期のものについて、決算期の変更及び仮決算による取込みを行いました。

2020年3月期3Q累計には対象会社の2019年1月から3月の業績を含んでおります。（売上高8,946百万円、セグメント利益249百万円）



調達事業

■ 調達

(単位：百万円)	2019年3月期 3Q累計(※)	2020年3月期 3Q累計	前年同期比	
	金額	金額	増減金額	増減率
売上高	40,621	57,207	16,585	40.8%
セグメント利益	366	417	50	13.8%



※2019年3月期3Q累計におけるバイテックの「調達事業」の値

■ 調達事業

- ・パナソニックグループとの協業伸展による車載・P C 関連部材の増加、香港での大手 P C メーカーとの取引拡大等が寄与し、売上高は大幅増
- ・増収等によりセグメント利益も拡大
- ・外販における新規案件の獲得、並びにデバイス事業との連携による新たな顧客への展開や、共通オペレーションの効率化といった新規取組みも開始

電子機器事業

■ 電子機器 ■ システム機器

(単位：百万円)	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	
	3Q累計(※)	3Q累計	増減金額	増減率
	金額	金額		
売上高	13,956	15,498	1,541	11.0%
セグメント利益	75	406	330	437.7%



※2019年3月期3Q累計におけるU K Cの「電子機器事業」及び「非接触ICカード関連事業」並びに
バイテックの「計測機器事業」の合算値

■ 電子機器事業

- ・放送局や企業・団体における大型案件の増加、4 K への設備切替え需要等が奏功し売上高が増加
- ・設計から施工・保守まで含めた高付加価値ビジネスの拡大やコストの徹底的な見直しにより増益

■ 計測機器事業

- ・電波分野における計測機器等が堅調に推移

■ システム機器事業

- ・決済用キャッシュレス端末や出入管理端末等が好調に推移
- ・キャッシュレス化のビジネスを更に推進することを目的に、キヤノン電子株式会社、あいホールディングス株式会社と合併会社を設立、株式会社レスターキャストックとして新たにスタート

■ 売上高の伸長とコスト削減効果等によりセグメント利益も拡大

環境エネルギー事業

■ 発電 ■ 新電力 ■ 植物工場

(単位：百万円)	2019年3月期 3Q累計(※)	2020年3月期 3Q累計	前年同期比	
	金額	金額	増減金額	増減率
売上高	7,445	8,114	668	9.0%
セグメント利益	646	808	162	25.1%



※2019年3月期3Q累計におけるバイテックの「環境エネルギー事業」の値

■ エネルギー事業

- ・新規太陽光発電所向けのパネル等の販売が伸長、太陽光発電等の収入が堅調に推移し売上高が拡大
- ・台湾に現地法人事務所を設立、海外における発電事業にも積極的に取組む方針
- ・風力・太陽光ハイブリッド型発電事業(異なる発電方法の組み合わせ)の取組みも推進

■ 新電力事業

- ・電力卸売市場への依存度を下げ、仕入れコストの固定化（削減策）実施による利益の安定化を目指す
- ・卒FIT(固定買取制度終了後の電力購入の仕組み)を活用した地産地消の新しい電力スキームの取組みを開始

■ 植物工場事業

- ・日本最大級の供給体制を確立、商品ラインナップ拡充による大手コンビニエンスストア等を始めとした業務用市場への販売が増加
特徴ある製品への転換、食品加工会社を中心とする中食市場の新たな開拓推進

通期見通し及び進捗率

(単位：百万円)	2020年3月期3Q	2020年3月期通期 (見通し)	進捗率
	金額	金額	
売上高	294,618	410,000	71.9%
営業利益	4,978	7,000	71.1%
経常利益	7,154	8,000	89.4%
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	5,571	5,500	101.3%

- ・連結業績見通しについては変更なし
- ・経営統合による「のれん償却額」3Q累計891百万円（暫定）を販管費に計上
- ・本年5月に行った株式取得に掛かる「持分法による投資利益」が発生（営業外収益）し、経常利益以下が大きく進捗
- ・新型コロナウイルスの動向については現時点では不透明、その他要因を含めて、今後の更なる影響を見極め適切な情報開示に努める方針

2020年3月期3Qで暫定的に計上している経営統合に掛かるのれんの確定額、半導体及び電子部品事業における仕入先（中華映管股份有限公司）の経営破綻による影響については、詳細が確定次第お知らせいたします。



連結貸借対照表

(単位：百万円)	2019年3月末 (※)	2019年12月末
資産の部		
流動資産	147,194	139,666
固定資産	31,973	59,799
資産合計	179,166	199,465
負債純資産の部		
流動負債	102,982	106,385
固定負債	18,656	19,059
純資産	57,529	74,020
負債純資産合計	179,166	199,465
自己資本比率	－	35.6%
BPS (円)	－	2,362.58

※2019年3月末の数値は、U K Cとバイテックの単純合算



株主還元方針

総還元性向※：50%以上

※配当及び自己株買いによる株主還元の合計金額を純利益で除した指標

- ・中期的に安定的かつ継続的な配当の維持
- ・将来の成長に向けての戦略投資を積極的に実施することで、
更なる利益の拡大・継続的な資本効率等の改善と向上を実現

▼ (参考) 2020年3月期 配当 (予想) ※従来予想より変更無し

	1株当たり配当金 (円)		
基準日	第2四半期	期末 (予想)	合計 (予想)
2020年3月期	35円00銭	45円00銭 (普通配当35円00銭) (記念配当10円00銭)	80円00銭 (普通配当70円00銭) (記念配当10円00銭)



TOPICS



電子機器事業

共信コミュニケーションズ株式会社

Inter BEE2019 出展

共信コミュニケーションズは、映像/音響技術、ICT、計測技術を通じて付加価値を創造し、最適化されたソリューションをお客様に提供しております



11月13日~15日 日本随一の音と映像と通信のプロフェッショナル展として最新のイノベーションが国内外から一堂に会する国際展示会 InterBEE2019 に出展いたしました（幕張メッセ）



高精細 4K LEDディスプレイ
(サイネージ、ショールーム等)



AIを利用した動画解析
コンテンツ管理システム「DaAlps」
(動画データ、講義収録等)

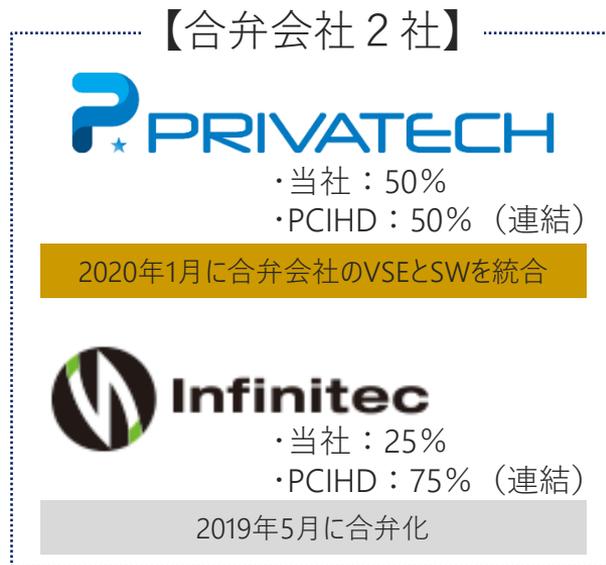
[Inter BEE2019レポートはこちら](#)



パートナー企業との共創①



- デバイス事業
- EMS/調達事業
- 電子機器事業
- システム機器事業
- エネルギー/新電力事業
- 植物工場事業



- 半導体トータルソリューション事業
- エンベデッドソリューション事業
- ビジネスソリューション事業
- IoT/IoEソリューション事業

「技術」と「情報」をキーワードに更なる技術提案力と新たな市場・顧客開拓へ



パートナー企業との共創②

FeliCaをはじめとした、NFC技術（※）を活用した決済端末及び
出入管理装置等の開発・製造・販売を推進

（※）近距離無線通信技術

株式会社レスターキャスト

合弁化

10%

80%

10%

キャノン電子株式会社

株式会社レスターホールディングス

あいホールディングス株式会社

- ✓ 各社商材のクロスセル
- ✓ 技術資産の共有による開発・設計力の向上
- ✓ 生産集約によるものづくりの効率化・競争力向上

事業領域の拡大



ハンディターミナル/決済端末分野
セキュリティ機器・FinTech・ネットワーク技術

エネルギー事業



『環境・エネルギー問題』に対し、
再生可能エネルギーの普及・拡大を通じて
脱炭素社会・持続可能な分散型社会の実現に貢献

- ▶ 北海道での「風力と太陽光のハイブリッド発電」の開始
- ▶ 「太陽光発電事業」の海外展開（台湾）



メガソーラー：2013年3月～



営農型太陽光発電：2018年2月～



風力と太陽光：2020年度～

台湾進出：2019年度～



領域の拡大

新電力事業



卒FIT (※) を活用する地産地消電力供給スキーム

地域振興への貢献

顧客ニーズへの対応
(価格・環境・安定供給の重視)

おおた電力 (群馬県太田市) の事例



太田市在住
卒FITオーナー



(株)おおた電力



文化会館・総合体育館



市民会館



美術館・図書館

出資



レスターグループの新電力会社

(※) 固定買取制度終了後の電力購入の仕組み

APPENDIX



事業内容

半導体及び
電子部品事業

半導体・電子部品

- ・国内外の最先端デバイス及びエネルギー・環境関連商材の販売
- ・幅広い商品群と高度なサポート、技術サービスによるソリューション提案

半導体及び
電子部品事業

信頼性試験・環境物質分析サービス

- ・デバイスや電気電子製品等に対する各種評価試験及び有害物質化学分析

半導体及び
電子部品事業

システムエンジニアリング

- ・センサー技術をはじめとした半導体及びLSI設計、評価、テストサービス



事業内容

半導体及び
電子部品事業

EMS

- ・自社工場における有機ELパネル向け部材等の実装及びそれに伴う購買、生産管理、品質保証

調達事業

調達

- ・顧客ニーズにマッチしたグローバルな調達トレーディングサービス
- ・調達関連のアウトソーシングを請け負う調達付帯業務受託サービス

事業内容

電子機器事業

電子機器

- ・放送、映像、音響、通信機器の設計、施工、保守
- ・最先端の映像、音声、データ処理技術によるソリューションの提供

電子機器事業

計測機器

- ・特殊な測定技術、利用技術、システム技術・設計ノウハウ等のアプリケーション提供
- ・修理、計測校正サービス等の研究、開発、販売サポート

電子機器事業

システム機器

- ・FeliCaを始めとしたNFC（近距離無線通信）技術の応用製品開発、製造販売



事業内容

環境
エネルギー事業

再生可能エネルギー

- ・太陽光発電所、風力発電所等による再生可能エネルギーの導入、地域普及に向けた運営管理サービス

環境
エネルギー事業

新電力

- ・再生可能エネルギーを中心とした電力の供給、売買の仲介、電力コンサルティングによる総合エネルギーのマネジメント

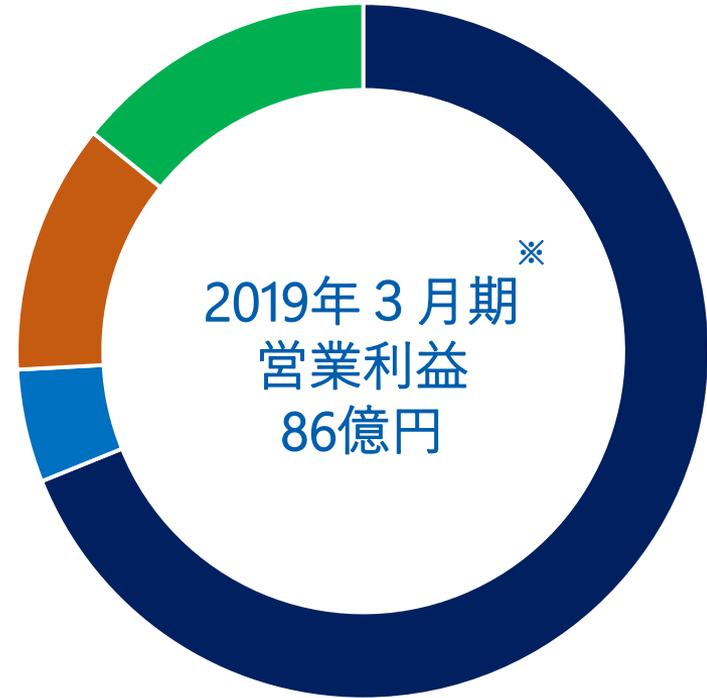
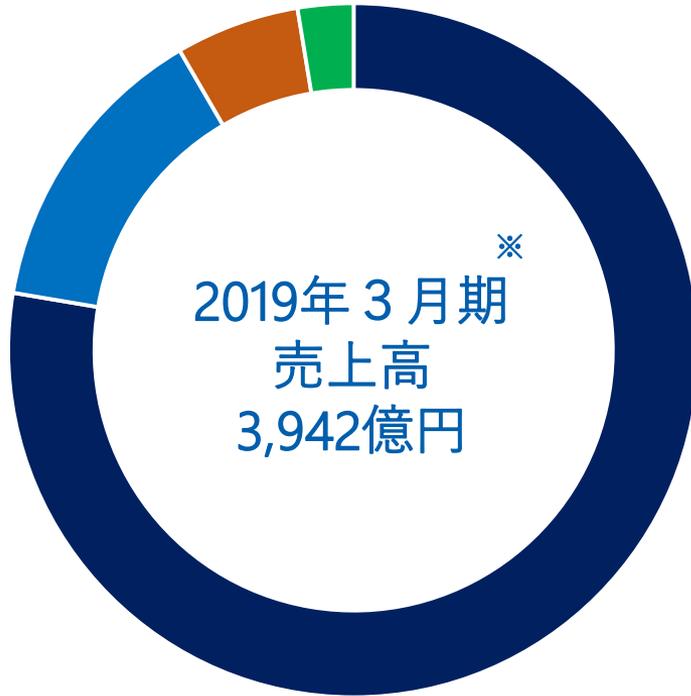
環境
エネルギー事業

植物工場

- ・コンビニエンスストア、外食チェーン等の業務用市場へ向けた完全閉鎖型の植物工場産野菜の製造・販売



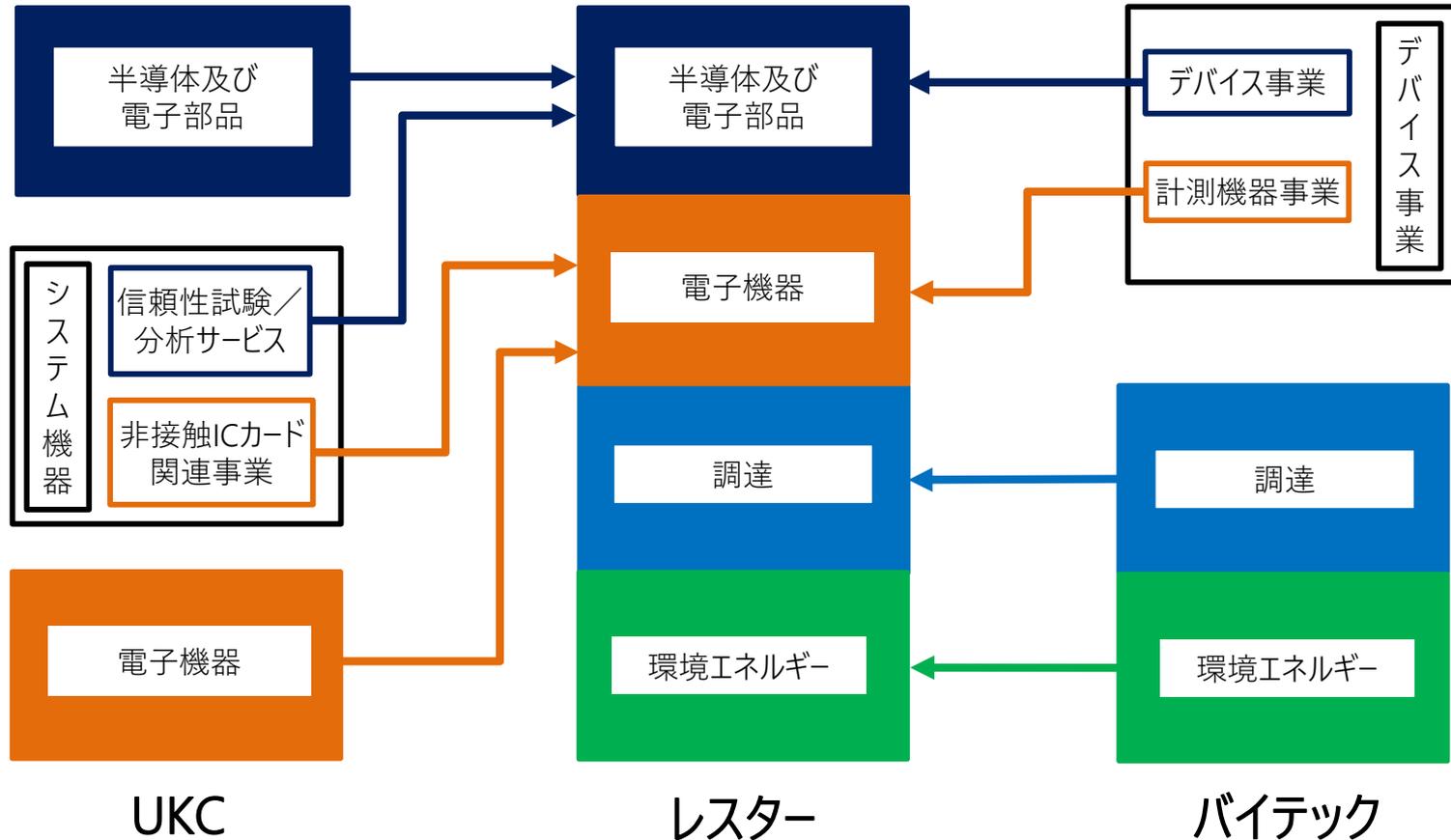
セグメント構成比



■ 半導体及び電子部品 ■ 調達 ■ 電子機器 ■ 環境エネルギー

※両社の2019年3月期通期の数値を新たなセグメントに組替えております

セグメント組替図



売上高推移

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	レスタ- 2020年3月期予想
U K C	273,752	301,449	205,771	410,000
バイテック	138,841	185,883	188,519	
合計	412,593	487,332	394,290	

※UKCとバイテックの単純合算

連結損益計算書（2019年3月期）

▽株式会社UKCホールディングス

	第9期 自2017年4月1日 至2018年3月31日	第10期 自2018年4月1日 至2019年3月31日	前年 同期比
売上高	301,449	205,771	▲ 95,678
営業利益	4,384	4,508	124
経常利益	3,908	4,198	290
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,129	2,192	63

▽株式会社バイテックホールディングス

	第31期 自2017年4月1日 至2018年3月31日	第32期 自2018年4月1日 至2019年3月31日	前年 同期比
売上高	185,883	188,519	2,636
営業利益	3,130	4,137	1,006
経常利益	2,573	2,789	226
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,840	1,761	▲ 79

レスターグループ 経営理念

ミッション

情報と技術で、新しい価値、サービスを創造・提供し、
社会の発展に貢献します

ビジョン

あらゆるニーズに対応できる
エレクトロニクス総合商社を目指します
世界・社会貢献・共創と革新

バリュー

- ・多様な考えを受け入れ共創を通じて新しい文化や価値を創り出します
- ・常に高い目標を掲げて革新的な発想と情熱で挑戦し続けます
- ・活躍の場を世界へと広げ持続可能な社会の発展に貢献します

<お問い合わせ先>

広報・CSR・IR部 高嶋、吉田、榊原

Mail to : irpr@restargp.com

<将来の見通しに関する注意事項>

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、様々な外部要因、内部要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。